弘前大学教育学部紀要　第122号：１～７（2019年10月）
Bull. Fac. Educ. Hirosaki Univ. 122：１～７（Oct. 2019）

石川県立図書館所蔵の往来物資料について
―特殊文庫における調査報告―

Investigation report on “OURAIMONO” documents of Ishikawa Prefectural Library possession: Survey of bibliographies in the particular libraries

郡　　千寿子*
Chizuko KOHRI*

要　旨

石川県立図書館に所蔵されている近世期版本の往来物資料について、調査した概要をここに報告する。石川県立図書館には、〈森田文庫〉〈饒石（にぎし）文庫〉〈李花亭文庫〉〈川口文庫〉といった特殊文庫があり、それらの文庫目録[1)]に拠って予備調査を行い、調査対象に該当すると思われる文献資料を抽出した。その後、当該資料の書誌調査を実施し、分類整理を行った。〈森田文庫〉には該当資料がなく、〈饒石（にぎし）文庫〉には8本、〈李花亭文庫〉には３本、〈川口文庫〉には23本、総計34本の近世期版本往来物資料の所蔵が確認できた。総数34本を目的別、出版地域別に分類すると、目的別では、教訓科往来３本、社会科往来３本、語彙科往来２本、消息科往来　20本、地理科往来１本、歴史科往来４本、産業科往来０本、理数科往来１本、女子用往来０本という結果であった。消息科往来が59％を占めるという偏在が明らかとなった。

出版地域別の分類では、江戸11本、京都９本、大坂４本で、不明が10本という結果であった。北前船の寄港地である秋田や酒田の往来物資料は、圧倒的に京都と大坂の出版が多く、関西圏から海路で運ばれたと考えられた。他方、新潟では江戸からもたらされたものが多く、陸路の比重が高いようであった。石川県立図書館所蔵の資料に限って言えば、江戸11本に比して、京都と大坂を合わせると13本であり、関西圏からのものと江戸が僅差であることが知られた。往来物の分布を通して、地域の教育的背景の格差や文化伝播状況などを解明することを目的としているが、本稿は、他地域の状況と比較する上で基盤となる調査の一報である。

キーワード：北陸、石川県、往来物、言語生活、地域文化、教育背景

１．研究の背景について

近世期以降に出版された往来物資料を通して、実生活にどのようにそれらの文献資料が関わっていたのかの具体像を探ることを目的に研究[2)]をすすめている。往来物は、寺子屋などで手習いのために使用された教科書の類の総称であるが、近世期には様々な種類のものが出版された。従来の往来物研究は、教育史資料という側面からなされてきたが、日本社会の近代化や人間文化形成に果たした役割や影響など、多くの未開拓課題が存在し、新たな視点からの活用が期待されている。

しかし、文献資料の基礎的研究をはじめとして、発掘も十分にすすんでいない現状にあり、そうした事情を背景に、東北地域の往来物資料についての調査研究[3)]をすすめてきた。現在、東北地域と海域でつながり、近世期に関西とも文化交流など関係が深かったと予測される、北陸地域にも調査対象を拡げている。地域間格差や文化伝播事情など研究の進展を目指し、富山[4)]、新潟の調査報告[5)]に加えて、新たに本稿では、石川県立図書館の特殊文庫所蔵資料について、調査結果を報告する。

＊弘前大学教育学部国語教育講座
Department of Japanese Language and Literature, Faculty of Education, Hirosaki University

２．調査方法

東北地域における所蔵往来物の調査にならい、原則として、写本は除き、版本に限って成立時期や出版元を確認した。調査対象の資料それぞれについて、目的別と出版地別に分類整理[6]して、地域ごとの特徴について今後考察検討したいと思うが、写本を除いたのには意味がある。本研究の大きな目的のひとつは、地方における近世期の庶民生活について、出版文化を通して考えてみることである。写本は、その資料の内容を知るには重要な資料であるが、どこでどのような文献が出版され、それがどのような場所で使われてきたか、文化や教育の流通状況[7]を解明するためには、版本の方がより大きな資料的価値をもつと考えたからである。

基本的には、従来の調査手法を踏襲し、調査対象の往来物資料を厳選し、分類整理を試みた。文献資料の所在や記載内容については、『国書総目録』[8]『古典籍総合目録』[9]および『往来物解題辞典』[6]によっても検討した。

３．特殊文庫[1]と資料紹介

３－１　森田文庫について

〈森田文庫〉には、近世期の往来物資料は所在がないという結果であったが、往来物に限らずにみれば、興味深い資料が多数所蔵されており、地域の教育水準や思想的背景を考える上に貴重であると思われる。森田柿園は、明治期に石川県の郷土史研究の基礎を作った人物として高く評価されており、その柿園を含む森田家歴代の蔵書が、森田文庫と称されるものである。

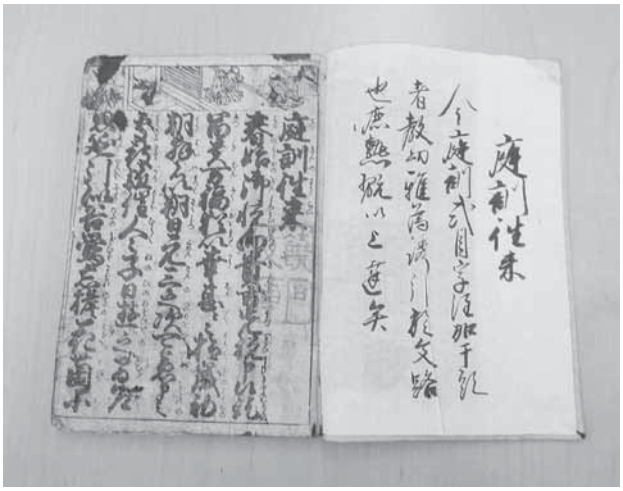
加賀藩の歴史を見るうえだけでなく、この歴代の森田家の人々が収集してきたものには、非常に価値がある資料も含まれている。柿園旧蔵の高山寺本『和名類聚抄』（現在は天理図書館所蔵）は、平安末期以前の成立といわれ、稀覯本で国宝ともなっている。このほか歴史や地誌に関するものが多いようであるが、貴重で重要な文献資料を収集していたらしいことが知られるのである。

３－２　饒石（にぎし）文庫について

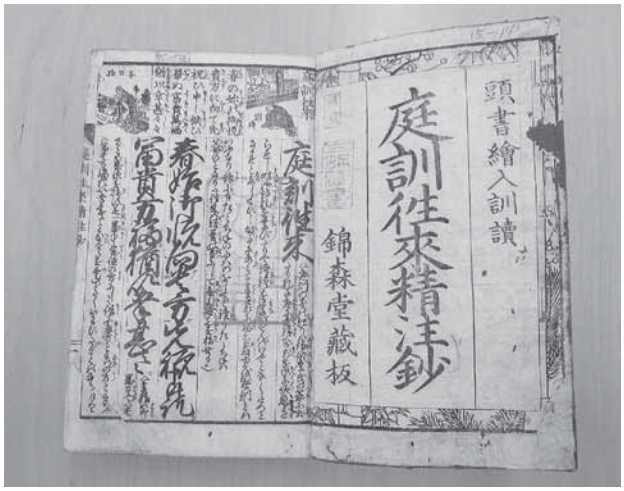
〈饒石（にぎし）文庫〉は、中橋和之氏の所蔵資料や三好保弘氏の寄贈図書をもとに明治８年に石川県門前町剣地村に郷土の文化の発展のために設立されたが、明治35年に財団法人化され、その後、昭和41年の解散にともなって、蔵書のほとんどが県立図書館に寄贈された。

江戸中期から明治、大正期の和漢書、洋書あわせて4256冊で、分野は宗教、教育、文学、地理歴史、経済、理工学、医学など広範にわたっている。その中には、郷土史研究上、貴重な資料である、中橋氏自筆の『能産論』、『能登生産記』がある。中橋氏は、明治政府の官吏であり、その際に収集したと思われる、産業経済誌や日本海運史研究の貴重な資料群も含まれている。そのほか、ドイツの農業事情を色刷りで紹介した『独逸農事図解』、幕末の探検家松浦武四郎の『大日本史』『大日本校訂訓点大蔵経』等特色ある資料が数多くあるという。

近世期の版本の往来物資料は、８本が確認された。目的別に分類すると、消息科往来が４本で、教訓科往来が１本、社会科往来が１本、歴史科往来が１本、理数科往来が１本である。



【画像①】102『庭訓往来』（表紙裏・1丁表）



【画像②】103『庭訓往来精注鈔』（表紙裏・1丁表）

出版地域別では江戸が最も多く４本、大坂が２本、京都が１本で不明が１本という結果であった。

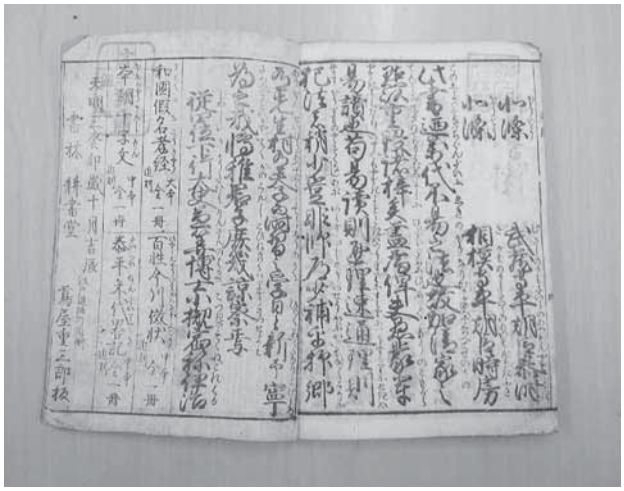
分類番号102の『庭訓往来』【画像①】は、全62丁。縦26cm、横18.5cm。表紙は後付けらしいベージュ色で題箋はなく、直書で「庭訓往来」とある。内題は１丁表「庭訓往来」、「ていきんのわうらい」と振り仮名がある。目的別分類は消息科往来で、出版地域は不明。表紙裏と裏表紙裏は後付けの和紙が貼られ、「文久二戌　中野氏」と書き入れが確認できる。

分類番号103の『庭訓往来精注鈔』【画像②】は、全118丁。著者は、黒田成章。縦18cm、横12cmの中本の資料で、主として庶民の日常生活に即して庭訓往来の各状を平易に解説したもので、挿絵があるのが特徴といえる。目的別分類は、消息科往来。出版地域は江戸。題箋に「庭訓往来精注鈔　全」とあり、表紙茶色で、見返しに「頭書絵入訓読　庭訓往来精注鈔　錦森堂蔵板」とある。柱書は「庭訓往来精注鈔」と丁数の記載がある。裏表紙裏には、「東都書肆　日本橋通一町目　須原屋茂兵衛　同二町目　山城屋佐兵衛　芝神明前　岡田屋嘉七　同　和泉屋市兵衛　大傳馬町二丁目　丁子屋平兵衛　通油町　藤岡屋慶二郎　芳町親父橋　山本平吉　下谷御成道　英文蔵　横山町一丁目　出雲屋萬次郎　馬喰町二丁目　出口屋藤兵衛　同　森屋治兵衛板」と関わった書肆が列挙されている。

分類番号158の『実語教童子訓』【画像③】は、教訓科の往来資料である。表紙裏に「八島五岳先生註」と注釈者と「書肆京師三家」との記載が確認でき、出版地は京都とした。全46丁の資料で、大きさは縦22cm、横15.5cm。表紙は文様入りで薄緑色。表紙裏の見返しに「実語教童子訓」と題名があり、「じつごけうどうじくん」と振り仮名が記されている。「書肆　京師三家合梓」、裏表紙裏に「天保九年戊戌季秋増註新刻」とあり、天保９年（1840）の刊行であることが知られる。最終丁に「三都書屋　江戸日本橋通壱町目　須原屋茂兵衛　同弐町目　山城屋左兵衛　大坂心斎橋通唐物町　河内屋太助　京寺町通松原下ル　勝村治左衛門　同三条通富小路東　須原屋平左衛門　同三条通東洞院東　大文字屋口五郎」とあり、江戸、大坂、京都の三都の書肆が列挙されている。１丁目表欄外上に朱書きで「此書ハ保弘五歳ノ時（弘化二年）真口書セシ時賜ハリシナリ」と書き入れがあり、実際の使用歴が書かれている点も興味深い。

分類番号634の『御成敗式目』【画像④】は、北条泰時（編）のもので、社会科往来の代表的な資料として著名である。「御成敗式目」は異称として「貞永式目」「関東式目」等とも称される。目録では「貞永御成敗式目」とあるが、外題内題とも「御成敗式目」とあり、本稿では『御成敗式目』とした。大本一冊が多く、中世より読み書きの手本として多用され、近世以降、おびただしく流布した。この資料は、「江戸　蔦屋重三郎」が版元であり、出版地域は江戸。大きさは、縦19cm、横13cm。本来は、全80丁（20～69丁落丁）の資料であるはずが、柱書の「十九」の次が「七十」となっており、落丁が確認できる。現存は、全30丁。表紙は薄青色で、直に「御成敗式目」と書かれ、題箋はない。裏表紙に落書きがある。最終丁の裏表紙裏に「天明三発卯歳十月吉辰」「書林　耕書堂　江戸通油町南側　蔦屋重三郎板」と確認でき、天明3年（1784）に江戸で刊行されたことが知られる。また、「和国假名孝経　大本全一冊近刊」「百姓今川揃状　中本全一冊近刊」「本朝千字文　中本全一冊近刊」「泰平年代略記　中本全一冊近刊」と出版本の宣伝が

【画像③】158『実語教童子訓』（表紙裏・1丁表）



【画像④】643『御成敗式目』（最終丁）

記載されている。

分類番号744の『古状揃萬寶蔵』【画像⑤】は、歴史科往来資料である。出版地域は江戸。『古状揃』は歴史科往来資料として多くの所在が知られているが、『古状揃萬寶蔵』は、所蔵先として個人と玉川大・東京学芸大のみの資料で珍しい文献である。石川県立図書館所蔵本は本稿で初めて紹介されるものであり、貴重な報告といえよう。大きさは縦15cm、横22cmで全28丁。表紙は青色、題箋に「天保新刻　古状揃萬寶蔵　全　平仮名附」とある。柱書は、「古状」とあり、裏表紙裏の最終丁に「天保九戊戌年夏日発克」と天保９年（1840）の刊行が確認できる。「東都書林　馬喰町二丁目　西村與八　中橋廣小路　西宮彌兵衛　芝神明前　岡田屋嘉八　同三嶋町　和泉屋市兵衛」とあり、江戸の出版で、他の出版本の宣伝が「庭訓往来栄寿松　半紙形平かな附　同無点近刻　商売往来　半紙形平かな附　同無点近刻　古状揃萬寶蔵　右二同　御成敗式目　右二同　実語教童子教　右二同　御江戸往来　右二同　當流小うたひ　延寿大雑書」と見える。

分類番号819の『暦日諺解』は、理数科往来。大きさは、縦23cm、横16cmで、「江戸　須原屋茂兵衛」が出版した記載がある。表紙は文様入で薄青色。全35丁。題箋は「暦日諺解」とあるが、最終丁には、「立表測景暦日諺解」と別の書名題が確認できる。

分類番号1071の『消息文例』は、縦18cm、横11.8cmの小型の消息科往来である。「大坂加賀屋善蔵」と記載があり、出版地域は大坂。全45丁。「文化十二」と文化12年（1816）と刊行年の記載がある。

分類番号1072の『消息文例　上・下』【画像⑥】は、縦26cm、横18cmの消息科往来である。1071の資料は一冊本であったが、こちらは上下二冊のものである。上は、柱書に「序４丁　凡例４丁　目録４丁　本文48丁　計60丁」とある。下巻は、柱書に「本文40丁　跋２丁　計42丁」とある。「大坂　河内屋儀助」とあり、出版地域は大坂で、「文化二」と文化２年（1806）の刊行年が知られる。

３－３　李花亭文庫について

石川県出身の国文学者藤岡作太郎博士が愛蔵していたもので、文庫の命名は藤岡博士が李花を愛し、その集めた書を李花亭文庫と称していたことからという。国文学、美術、国史関係書が大部分を占め、その内容は多方面にわたっている。中でも、『西行上人集』は、「異本山家集」として、広く代に知られており、『西行法師家集』『堤中納言物語』など国文学研究のうえから貴重なものを数多く有している。

1910年（明治43）、石川県立図書館創立時に購入されたこの文庫は、大正時に目録が発刊されたが、部数が少なく、各方面から再刊について強い要望があったという。和漢書や洋書を含め、貴重な文献が所蔵されているが、近世期の往来物資料については、３本が確認された。

目的別分類では、教訓科往来が２本、語彙科往来が１本であり、出版地域別では、大坂が１本で、２本は不明であった。

分類番号290の『六諭衍義大意』【画像⑦】は、大きさは、縦26.3cm、横18cm のいわゆる大本である。目的別分類では、教訓科往来で一冊本。表紙は、薄ベージュ色で題箋に「六諭衍義大意　全」とある。全42丁で、「弘化三」と弘化３年（1848）の刊行年の記載が確認できる。

分類番号295の『和俗童子訓』【画像⑧】は、題箋に

【画像⑤】744『古状揃萬寶蔵』（表紙）

【画像⑥】1072『消息文例　上・下巻』（表紙）

は「童子訓」とある。目的別分類では教訓科往来で、大きさは縦22cm、横15.5cm。三冊本で、表紙は青色。題箋には「童子訓　一　総論」「童子訓　二　随筆　読書　手習」「童子訓　三　教女」とある。一巻は、序１丁と本文31丁で全32丁。裏表紙裏に「安永発巳歳九月再版　書林　大坂心斎橋順　町柏　渋川清右衛門」とあり、出版地域は大坂で、「安永発巳」の安永２年（1773）と刊行年も知られる。

分類番号503の『千字文』は目的別分類では、語彙科往来である。縦26.5cm、横18.7cm の大本である。表紙は後付けのもので、「千字文」との題名がある。元の表紙には題箋に「□行書千字文」とあったようで、表紙は薄青色で題箋がある。書道の手本と思われ、朱色で書き入れと両点がある。裏表紙裏に「松浦□」と所蔵者らしき署名が確認できる。

３－４　山口文庫について

平安朝漢文学研究の第一人者として知られている、故川口久雄博士の愛蔵書が寄贈され、川口文庫として整備されたものである。図書約１万３千冊と学術雑誌約130種４千冊余りの膨大なコレクションであり、川口博士が集積された貴重な資料が多数所蔵されている。特に貴重なものとして、

菅原道真の詩文集『菅家文庫・菅家後集』や大江匡衡の漢詩集『江吏部集』、中世末期の古写本『和漢朗詠集私注』等が収められている。

往来物資料について調査した結果、〈川口文庫〉には23本の近世期版本往来物資料の所蔵が確認できた。それらを目的別、出版地域別に分類すると、目的別では、教訓科往来０本、社会科往来２本、語彙科往来１本、消息科往来16本、地理科往来１本、歴史科往来３本、産業科往来、理数科往来、女子用往来は０本という結果であった。出版地域別では、京都が８本、江戸が７本、大坂が１本、不明が７本という結果であった。

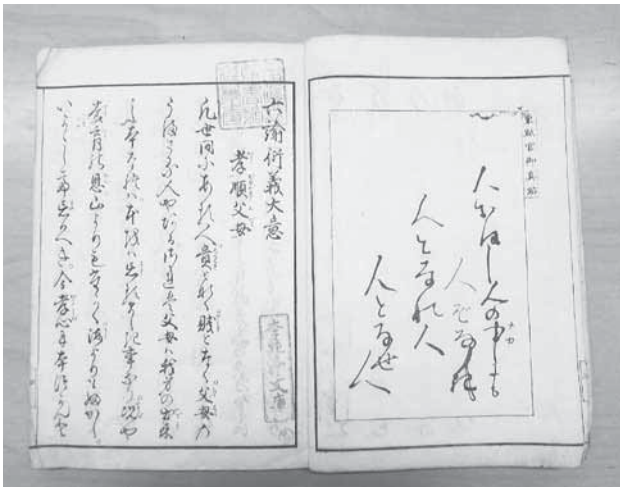
資料の書誌的な紹介もしたいが、紙幅の関係で、本稿では、〈饒石（にぎし）文庫〉と〈李花文庫〉の資料紹介にとどめ、多数の所蔵が確認された〈川口文庫〉の資料については別稿に譲ることにする。

４．まとめにかえて

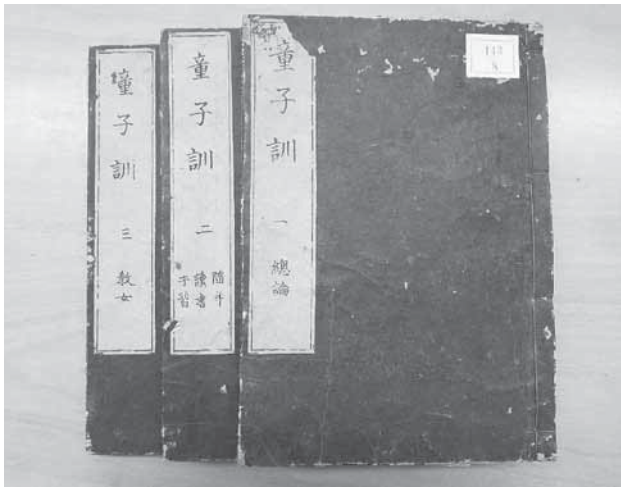
石川県立図書館の特殊文庫〈森田文庫〉〈饒石（にぎし）文庫〉〈李花亭文庫〉〈川口文庫〉といった文庫における、近世期往来物資料の調査結果は、総数では、34本の所蔵を確認した。目的別分類の資料数とその割合、また出版地域別分類の割合をグラフ化して後掲した。

目的別の分類では、教訓科往来３本、社会科往来３本、語彙科往来２本、消息科往来20本、地理科往来１本、歴史科往来４本、産業科往来０本、理数科往来１本、女子用往来０本という結果であった。消息科往来が59％を占めるという偏在が明らかとなった。

出版地域別の分類では、江戸11本、京都９本、大坂４本で、不明が10本という結果であった。北前船の寄港地である秋田や酒田の往来物資料は、圧倒的に京都と大坂の出版が多く、関西圏から海路で運ばれたと考えられた。他方、新潟では江戸からもたらされたものが多く、陸路の比重が高いようであった。石川県立図書館所蔵の資料は、総数としては多くないが、それらに限って言えば、江戸11本に比して、京都と大坂を合わせると13本であり、関西圏からのものと江戸が僅差



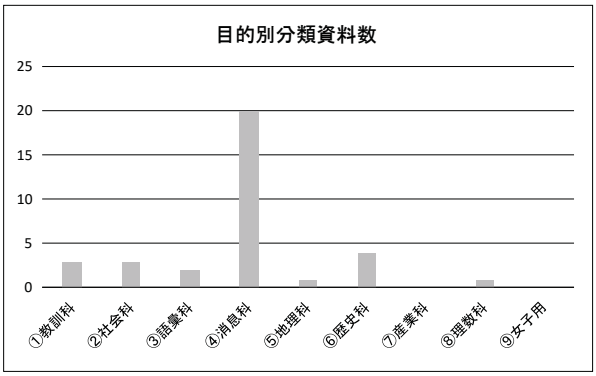
【画像⑦】290『六諭衍義大意』（3丁裏・4丁表）

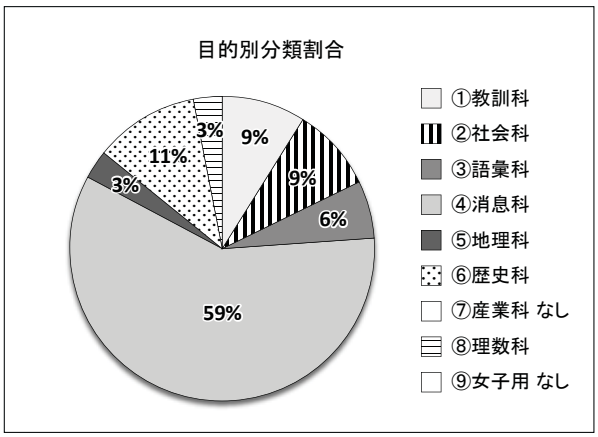


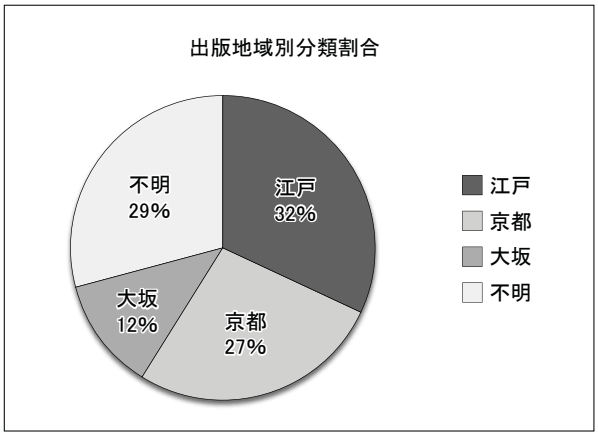
【画像⑧】295『和俗童子訓一～三』（表紙）

であることが知られたのである。

往来物の分布を通して、地域の教育的背景の格差や文化伝播状況などを解明することを目的としているが、本稿は、他地域の状況と比較する上で基盤となる調査の一報となると思われる。







注

1）『森田文庫目録』（石川県立図書館、1994年）、『にぎし文庫目録』（石川県立図書館、1991年）、『李花文庫目録』（石川県立図書館、1980年）、『川口文庫目録』（石川県立図書館、1997年）等参照。

2）拙稿「弘前市立図書館所蔵「往来物」について―関西文化との関係から―」（『関西文化研究叢書別巻　往来物の研究　第１輯』所収、武庫川女子大学関西文化研究センター、2006年3月）、拙稿「弘前市立図書館蔵『都花月名所』考―近世期の京都観―」（『関西文化研究叢書別巻　往来物の研究　第３輯』所収、武庫川女子大学関西文化研究センター、2007年3月）、拙稿「往来物の「女ことば」について」（『関西文化研究叢書10巻』所収、武庫川女子大学関西文化研究センター、2008年11月）、拙稿「近世期における「御所ことば」の記載について―東京大学総合図書館蔵「往来物分類集成」からの報告―」（『弘前大学教育学部研究紀要』第104号、2010年10月）、拙稿「国語資料としての『都花月名所』―江戸時代後期における漢字表記と振り仮名―」（『弘前大学教育学部研究紀要』第106号、2011年10月）、拙稿「『南都名所記』についての一考察―山形県立博物館教育資料館所蔵本の資料性－」（『弘前大学教育学部研究紀要』第110号、2013年10月）等参照。

3）拙稿「岩手県立図書館所蔵の往来物について」（『弘前大学教育学部研究紀要』第100号、2008年10月）、拙稿「八戸市立図書館　旧遠山家所蔵の往来物について」（『弘前大学教育学部研究紀要』第102号、2009年10月）、拙稿「秋田県立図書館所蔵の往来物資料について」（『弘前大学教育学部研究紀要』第103号、2010年3月）、拙稿「酒田市立光丘文庫所蔵の往来物資料―目的と出版地からの分類分析―」（『弘前大学教育学部研究紀要』第107号、2012年3月）、拙稿「山形県立博物館教育資料館所蔵の往来物資料―目的別分類からの考察―」（『弘前大学教育学部研究紀要』第108号、2012年10月）、拙稿「山形における江戸時代の書籍流通について―往来物資料の出版地域からの検討―」（『弘前大学教育学部研究紀要』第109号、2013年3月）、拙稿「秋田県立図書館所蔵往来物の出版地域に関する一考察―弘前・酒田・山形との比較検討―」（『弘前大学教育学部研究紀要』第111号、2014年3月）等参照。

4）拙稿「富山県立公文書館所蔵の往来物資料について」（『弘前大学教育学部研究紀要』第114号、2015年10月）、拙稿「高岡市立中央図書館所蔵の往来物資料について」（『弘前大学教育学部研究紀要』第115号、2016年3月）参照。

5）拙稿「長岡市立中央図書館文書資料室所蔵の往来物―横山家文書からの報告―」（『弘前大学教育学部研究紀要』第118号、2017年10月）、拙稿「新潟長岡「斯道館資料」の往来物について」（『弘前大学教育学部研究紀要』第119号、2018年3月）、拙稿「新潟県立図書館所蔵の往来物資料について―目的別分類の観点から―」（『弘前大学教育学部研究紀要』第120号、2018年10月）、拙稿「新潟県立図書館所蔵の往来物資料について―出版地域別の観点から―」（『弘前大学教育学部研究紀

要』第121号、2019年3月）参照。

6）分類については、石川松太郎著『往来物の成立と展開』（雄松堂、1988年）、石川松太郎・小泉吉永編著『往来物解題辞典　解題編』（大空社、2001年）、石川松太郎・小泉吉永編著『往来物解題辞典　図版編』（大空社、2001年）を参考とした。

7）長友千代治著『江戸時代の図書流通』（思文閣出版、2002年）、鈴木俊幸著『江戸時代の読書熱』（平凡社、2007年）、市川寛明・石山秀和著『江戸の学び』（河出書房新社、2006年）等参照。鈴木俊幸氏のご研究によれば「寛政期（1789～1801）を境にして、知と情報のありようが大きく変化していくように思われる。」（『江戸時代の読書熱』（平凡社、2007年）17頁参照）という。

8）『国書総目録　第１～９巻』（岩波書店、1963～1976年）参照。

9）『古典籍総合目録　第１～３巻』（岩波書店、1990年）参照。

【付記】

貴重な文献資料の閲覧や撮影、ならびに掲載許可をいただくなど、研究にご協力とご助力をいただいた、石川県立図書館の関係者各位に心より感謝申し上げます。

本稿は、科学研究費助成事業 JSPS　KAKENHI（基盤研究（C）課題番号15K02555）の助成を受けた研究成果の一部です。

（2019. 7 .23 受理）